

比較家族史学会

# 比較家族史 23

事務局 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

## 比較家族史学会 第二六回研究大会

テーマ 女性史・女性学の現状と課題①

日時 一九九四年十月二十九日(土)・三十日(日)

場所 京都橘女子大学

京都市山科区大宅山田町三四

### ■一日目(二十九日)

□会長挨拶 江守五夫 10:00

・特別講演 ヤマトタケルと家族 10:10

門脇禎二(京都橘女子大学)

・主旨説明 11:00 田端泰子(京都橘女子大学)

・古代女性史の現状と課題―後宮を例に― 11:10

西野悠紀子(府立鴨城高校)

・「妹の力」の再検討―八幡の託宣と宇佐宮の女禰宜の存在形態 11:50

飯沼 賢司(別府大学)

□昼食 (12:30~13:30)

・遊女をめぐる法と道徳 13:30

牧 英正(奈良産業大学)

・明治婚姻・離婚法史研究の現状と課題 14:10

村上 一博(明治大学)

・性差を考える―方法としての「ヘジエンダー」と「身体」 14:50

荻野 美穂(奈良女子大学)

□休憩 (15:30~15:50)

・近世ドイツの法と女性―嬰兒殺をめぐる言説と立法― 15:50

三成 美保(大阪経済法科大学)

・イギリス・ヴィクトリア期のフェミニズムと帝国主義 16:30

河村貞枝(京都府立大学)

□懇親会 (学生会館二階ビストロ 18:00)

### ■二日目(三十日)

・近代家族論の曲がり角―「家」を女性学はどう扱うか 10:00

落合恵美子(国際日本文化研究センター)

・近代日本における「国民」の生成と「家庭」イデオロギー 10:40

牟田 和恵(甲南女子大学)

・「声なき声」をいかに、どのように聞きとるか?―現家族へのフェミニズム民俗誌(Feminism Ethnography)的アプローチの方法をめぐって― 11:20

春日キスヨ(京都精華大学)

□昼食 (12:00~13:00)

□総会 (13:00~13:30)

□シンポジウム (13:30~17:00)

司会 上野千鶴子・田端泰子

運営委員

田端泰子(委員長)・上野千鶴子(東京大学)

服藤早苗(亜細亜大学)

## ■「女性史・女性学の現状

### と課題」開催のねらい

田端泰子・上野千鶴子

家族をさまざまな角度から注視しつづけてきた比較家族史学会は、第二六回大会と第二八回大会を連続したテーマで開催する。問題提起と討論、成果の刊行もあわせて行われる予定である。両大会のテーマは「女性史・女性学の現状と課題」とし、女性史と女性学を区別せず、現状分析と展望を合わせて、方法的かつ実証的な個別報告を積み重ねていくことにした。報告者の専門分野の報告のなかで女性史・女性学の視点が入ることにより研究はどのように変化したか、今後何を問題にするべきかが明らかにされるだろう。

今日の歴史学においては、フェミニズムは批判的視点からの分析において、大きな力となっている。近年、ジェンダー（性別）という概念を通して見る視点が呈示されたことは重要であり、影響力を持ちはじめている。言語にしみついたジェンダーを認識した上で、歴史現象を再考する必要がある。はじめたことは（スコット「ジェンダーと歴史学」、新しい方向性を示していると考えられる。しかしこれを個別研究の中で実証するのはかなり困難を要するが、個別分析に返してみてはじめてジェンダー概念が歴史学を変える分析視角なの

かどうかを試されると考える。

考古学でひとつの勾玉の発掘が先史時代像を変えるのと同様に、女性史上の事実の発掘と、既成の叙述への批判的分析は、歴史学の再構築を迫るものである。

このように考えてくると、現在、女性史・女性学のもつ重要性は改めていうまでもない実りある討論を期待する。

## ■研究大会資料

第二六回研究大会の報告者の代表的な著書や論文。参考文献は必ずしも今回の報告と関連するものではありません。

・西野悠紀子「古代女性史の現状と課題―後宮を例に―」

文献・「桓武朝と後宮―女性授位による一考察」  
〔長岡京古文化論叢Ⅱ〕・「古代女性生活史の構造」〔日本女性生活史〕第一巻原始・古代、東京大学出版会、一九九〇年・「日本女性の歴史―女のはたらき」(共著、角川選書、一九九三年)

・飯沼賢司「妹の力」の再検討―八幡の託宣と宇佐宮の女禰宜の存在形態―

文献・「中世前期の女性の生涯」〔日本女性生活史〕第二巻、東京大学出版会、一九九〇年・「神の声を聞く女たち」(BAHAN二号、極東印刷紙工、一九九一年)・「女性史入門」(共著、三省堂、一九九一年)

・牧 英正「遊女をめぐる法と道徳」

文献・「近世日本における人身売買の系譜」創文社、一九七〇年・「人身売買」岩波新書、一九七一年、九三年復刊

・村上二博「明治婚姻・離婚法史研究の現状と課題」

文献・「明治離婚裁判史論」法律文化社、一九九四年・「明治民法施行以前における離婚裁判の一考察」〔法制史研究〕三六号、一九八七年・「旧民法公布以前の離婚判決と「破綻主義」」〔神戸法学雑誌〕三九巻四号、一九九〇年)

・荻野美穂「性差を考える―方法としてのヘジエンダー」と「身体」

文献・「性差の歴史学 女性史の再生のために」〔思想〕一九八八年六月号)・「女の解剖学 近代的身体の成立」〔制度としてのへ女〕共著、平凡社、一九九〇年)・「身体史の射程あるいは、何のために身体を語るのか」〔日本史研究〕一九九三年二月号)

・三成美保「近世ドイツの法と女性―嬰兒殺をめぐる言説と立法―」

文献・「近世チューリッヒ市の夫婦財産制」〔家族・世帯・家門―工業化以前の世界から〕共著、ミネルヴァ書房、一九九三年)・「血族相続と家族―チューリッヒ法を中心に―」〔法制史研究〕四一号、一九九二年)・「死後の救済を求めて―中世ウィーン市民の遺言から」〔西洋中世の秩序と多元性〕共著、法律文化社、一

九九四年)

・河村貞枝「イギリス・ヴィクトリア期のフェミニズムと帝国主義」

文献・「イギリス・フェミニズムの背景」(「思想」六〇一号)・「イングリッシュウーマンズ・レビュー」誌の一考察」(「ジェントルマン・その周辺とイギリス近代」ミネルヴァ書房)・「イギリスにおける婦人参政権運動の考察」(「富山大学人文学部紀要」一七・一八号)

・落合恵美子「近代家族論の曲がり角―「家」を女性学はどう扱うか」

文献・「二世紀家族―家族の戦後体制の見かた・超えかた」有斐閣、一九九四年・「近代家族と日本文化―日本の母子関係を解き口に」(「女性学年報」第十号、一九八九年)・「近代家族とフェミニズム」勁草書房・一九八九年。

・牟田和恵「近代日本における「国民」の生成と「家庭」イデオロギー」

文献・「戦略としての女―明治・大正の「女の言説を巡って―」(「思想」一九九二年二月号)・「日本近代化と家族―明治期「家族国家観」再考」(「近代日本」の歴史社会学」共著、木鐸社、一九九〇年)

・春日キスヨ「声なき声」をいかに、どのように聞きとるか?―現代家族へのフェミニズム民俗誌(Feminism Ethnography)的アプローチの方法をめぐって―」

文献・「父子家庭を生きる―男と親の間」勁草書房、一九八九年・「家族の条件―豊かさの中

の孤独」岩波書店、一九九四年・「障害児問題からみた家族福祉」(「家族福祉の視点」共著、ミネルヴァ書房、一九九二年)

### 運営委員からの連絡

- 1 出欠のハガキは、十月十日までにご投函ください。
  - 2 当日の参加費は一、〇〇〇円です。
  - 3 昼食は、三十日は、京都橘女子大学生協で、弁当をとります。八〇〇円です。二十九日は生協が開いています。
  - 4 二九日の懇親会は、四、〇〇〇円です。
  - 5 二六回大会に関する連絡は、京都橘女子大学田端泰子運営委員長です。
- 京都市山科区大宅山田町三四  
Tel 〇七五―五七四―四二二〇  
FAX 〇七五―五七四―四二二四

### 事務局からのお知らせ

1 会費納入のお願い  
郵便料金の値上げなどで会財政は逼迫していますが、今年度は会費の値上げを行いません。出来るだけ、会費の値上げをしないで

んばりしたいと思いますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。会費の値上げをみこんで、会費を納入していただいた方もいますが残金は次年度にまわしたいと思います。

2 公開促進研究補助金の交付について

第二六回研究大会は、文部省科学研究費「公開促進研究補助金」の援助を受けます。この研究大会は公開となります。多くの方々にお知らせいただければと存じます。パンフレットが必要である方は、次の方へご請求ください。

二六回大会運営委員 服藤 早苗

3 比較家族史研究・バックナンバーについて

バックナンバーが必要である方は、会報第二十二号を御覧ください。この点についての連絡先。

森 謙二



## ▼▽幹事会議事録△▲

日時 一九九四年六月九日  
場所 青山学院大学

1 新入会員の承認

2 会計報告

○九十三年度会計報告

①会誌・名簿等の印刷代未納に付き、実質繰越金は二十万円程度

②送料の負担が大きいため、学術図書指定申請予定

③今年度は会費値上げをしない

④秋の研究大会には文部省の公開促進研究補助金申請

⑤文献目録の実費を今年度より支出予定

⑥外国からの報告者へは調査費として三万円程度支払う

○周年事業会計報告（最終）

・周年事業資金は、学会の基本基金に組み込み一般会計から区別する

・「事典家族」の印税も基本基金に組み込む

3 今後の研究大会について

・二回に渡り、女性史と女性学との現状や課題家族史との接点などを検討する

☆第二六回研究大会

テーマ 「女性史と女性学の現状と課題①」

場所 京都橘女子大学

日時 九四年十月二九日（土）三十日（日）

運営委員 田端泰子（女性史）・上野千鶴子（女性学）

（女性学）服藤早苗（事務局）

講演 門脇禎二氏に依頼

・報告テープを起こし、パンフ作成

☆第二八回研究大会

テーマ 「女性史と女性学の現状と課題②」

場所 福岡市（福岡市女性まつりとの共催）

日時 九五年十一月初旬

運営委員・二六回大会運営委員、植木とみ子

講演 渡辺洋三氏に依頼

・福岡市でパンフ作成予定

4 日本学術会議について

・次の会議に向けて情報交換のために委員会を設置

利谷委員長・井ヶ田・森・貢本・義江彰夫・森

岡・山中各氏

5 規約改正について

・役員選出等の規約改正  
規約検討委員会で原案を検討し、幹事会に提出

その際、①事務局組織のあり方、②幹事選挙のあり方を留意点とする

田中真砂子委員長・森事務局長で委員を検討

6 「比較家族史研究」第九号進捗状況

・論文と研究動向等は確定

・今年中には刊行予定

・郵政省学術図書指定申請予定（学術会議で審査）

・一昨年の未印刷原稿があり、抜本的改革の必要

必要

7 シリーズ家族史について

第一期「家と家父長制」再版予定

第二期「家と屋敷地」六月中に全原稿完成予定

定

「家族と地域社会」締切八月末

「死者祭祀と家族」締切十一月末

・再版の印税は、学会に全納

8 「事典 家族」について

・執筆者 総執筆者五百余名

・四百余の項目は執筆者再検討と追加項目

・執筆依頼発送進行中、八月末頃終了

・十月末原稿締切

9 その他

・「女性と縁組」の竹田論文の転載承諾

・以後の転載は事務局長への報告事項とする

▼▽第二五回総会△▲ 住所・所属変更

日時 九四年六月十一日  
場所 青山学院大学

青柳 和身

上村 正名

森本 敦司

1 新入会員報告(報告)

前之園幸一郎

長谷川真由美

2 会計報告(承認)

(住所表示変更)

・九三年度会計報告

吉見 周子

永野由紀子

・周期事業会計報告

・基本基金への組み込み報告

渡部 重行

所属愛媛大学  
菊地 靖・菊地 京子

3 「比較家族史研究」第九号の進捗状況

・今年中に刊行予定

渡部 重行

4 「シリーズ家族史」刊行進捗状況(報告)

松本 誠一

村山 聡

幹事会議事録参照

5 「事典 家族」刊行進捗状況(報告)

山下 美紀

所属香川大学  
鈴木 博人

幹事会議事録参照

6 今後の研究大会について(報告)

立山ちづ子

幹事会議事録参照

7 日本学術会議について(報告)

亀長 洋子

幹事会議事録参照

高崙 正人

8 その他

正岡 伸洋

末成 道男

幹事会議事録参照

(住所表示変更)

牧田 勲

新入会員

高橋 由紀

専門 文化人類学

所属 お茶の水女子大学女性文化センター

森田 悦史

専門 民法

所属 秋田経済法科大学

杉原たまえ

専門 農業経済

所属 清泉女子大学

奥村 郁三

専門 東洋法制史

所属 関西大学法学部

嘉本伊都子

専門 国際日本研究

所属 総合研究大学院大学

金子 浩平

専門 農業史・統計史

所属 神戸大学農学部

中沢 巷一

所属 鈴鹿国際大学

安元 稔

専門 経済史・歴史人口学・都市史

所属 駒沢大学

会 員 通 信

・渡辺 欣雄「世界のなかの沖縄文化」沖縄タイムズ社 一九九三年五月、二四〇〇円

・同「風水―気の景観地理学」人文書院

一九九四年一月 二四七二円

・天野 武「結婚の民俗」岩田書店、一九九

四年四月 二八八四円

・日本大学精神文化研究所(清水浩昭)「日本文化論への接近」日本大学精神文化研究所

一九九四年三月、非売品

・D・F・シュトラウス(生方卓外訳)「イエスの生涯・緒論」世界書院、一九九四年一

月 二九八七円

・佐々木宏幹・村武精一編「宗教人類学」新

曜社、一九九四年六月、二二六六円

・上野千鶴子「近代家族の成立と終焉」岩波

書店、一九九四年三月

・山田 昌弘「近代家族のゆくえ―家族と愛

情のパラドックス」新曜社、一九九四年五月、

二二六九円

・落合恵美子「二一世紀家族へ―家族の戦後

体制の見かた・超えかた」有斐閣、一九九四

年四月、一六四八円

・中村 彰「わたしの男性学―人生相談にみる

イエ意識」近代文芸社、一九九四年六月、二

〇〇〇円

・大竹 秀男「現代の家族―人間性回復の拠

点」弘文堂、一九九四年七月、二〇〇〇円

・北条浩・上村正名「志賀高原と佐久間象山」

財団法人和合会、一九九四年七月、非売品

・山中永之佑「日本近代国家と地方統治―政

策と法」敬文堂、一九九四年六月、七二一〇

円